
令和5年 第4回 対馬市議会定例会会議録(第4日)

令和5年12月8日(金曜日)

議事日程(第4号)

令和5年12月8日 午前10時00分開議

日程第1 市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 市政一般質問

出席議員(18名)

1番 糸瀬 雅之君	2番 陶山荘太郎君
3番 神宮 保夫君	4番 島居 真吾君
5番 坂本 充弘君	6番 伊原 徹君
7番 入江 有紀君	8番 船越 洋一君
9番 脇本 啓喜君	10番 小島 徳重君
11番 黒田 昭雄君	13番 波田 政和君
14番 小宮 教義君	15番 上野洋次郎君
16番 大浦 孝司君	17番 作元 義文君
18番 春田 新一君	19番 初村 久藏君

欠席議員(1名)

12番 小田 昭人君

欠 員(なし)

事務局出席職員職氏名

局長	國分 幸和君	次長	平間 博文君
課長補佐	糸瀬 博隆君	係長	犬束 興樹君

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵 輝孝君
教育長	中島 清志君
総務部長	木寺 裕也君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	一宮 努君
しまづくり推進部長	伊賀 敏治君
観光交流商工部長	阿比留忠明君
市民生活部次長	阿比留正臣君
福祉部長	田中 光幸君
保健部長	桐谷 和孝君
農林水産部長	黒岩 慶有君
建設部長	内山 歩君
水道局長	舍利倉政司君
教育部長	扇 博祝君
中対馬振興部長	原田 武茂君
上対馬振興部長	原田 勝彦君
美津島行政サービスセンター所長	藤田 浩徳君
峰行政サービスセンター所長	居村 雅昭君
上県行政サービスセンター所長	田村 竜一君
消防長	主藤 庄司君
会計管理者	勝見 一成君
監査委員事務局長	志賀 慶二君
農業委員会事務局長	主藤 公康君

午前10時00分開議

○議長（初村 久藏君） おはようございます。

報告します。小田昭人君から欠席の届出があつております。

ただいまから議事日程第4号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（初村 久藏君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は、3人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 皆様、おはようございます。明政クラブ、伊原と申します。

初めに、教育長さん、先月30日、地域の小学校の児童、教員の皆様、それから老人クラブ会員70名程度で、グラウンドゴルフを楽しみました。

主催は、社会福祉協議会でしたが、極めて楽しいひとときを過ごさせていただきました。

次回も開催できるように校長先生に御進言よろしく願いいたします。

以上です。

本日は、対馬市長期人口ビジョンの展望をテーマに、本市の人口減少の背景と持続可能な地域社会継続への取組について、次に、「よりあい処つしま」10周年目の運営状況としまして、福岡国際センターで開催されました大相撲九州場所開催における「よりあい処つしま」の事業実態の2点についてお尋ねをいたします。

さて、先月、関西を拠点とするプロ野球セリーグ・パリーグの優勝2チームの祝賀パレードが同日に行われ、延べ100万人の方々から祝福されたことが報じられていました。あの光景を目の当たりにしたとき、都会の勢いを感じました。また、東京では、330メートル級のタワーが建設され、最上階の賃借料は200億円の予定で、既に需要が見込まれているそうです。

このように、東京は、政治、経済、文化など様々な機能が集積し、我が国の社会経済の発展と、イギリス、ロンドン、ニューヨークを抜いて、世界一の都市を目指して取組が進んでいます。

一方、政令指定都市を除いた地方の人口は年々減少しています。その最大の要因は、国内の昨年度の出生数は77万800人弱で、対前年度と比較ではマイナス4万900人で、7年連続で減少しています。

さて、本市では、1988年から2023年までの35年間で、小学校23校、中学校15校が統廃合により閉校となっています。いかに、議会、教育行政を含めた子育て世帯支援策の継続が重要か、こども未来課を軸として、これから人口減少時代にふさわしい政策転換が求められているのではないのでしょうか。

このような中、本市の人口減少対策を含め、対馬市長期人口ビジョン、また、第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、持続可能な地域社会の継続に向けた「なりわいづくり分野」、2点目としまして、「交流・移住・定住分野」、3点目は「結婚・出産・子育て環境分野」、4点目は「高齢者のいきがづくり、住みやすいまちづくり分野」における4つの重点戦略が掲げられていますので、その具体的な現下の取組についてお尋ねをいたします。

2点目は、先月12日より福岡国際センターを会場に、大相撲九州場所が開催されました。九州場所の会場前に、本市のアンテナショップとして移転した「よりあい処つしま」の事業実態についてお尋ねいたします。

以上、2点について御回答よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。伊原議員の質問にお答えいたします。

初めに、対馬市長期人口ビジョンの展望についてでございますが、議員御承知のとおり、本市の人口については、昭和35年をピークに減少しており、令和2年の国勢調査による人口は2万8,502人となっており、急速な人口減少、少子高齢化という大きな課題に直面している状況であります。

このような中、令和2年1月に対馬市長期人口ビジョンを策定し、人口ビジョンで示す目指すべき将来の方向性を踏まえ、第2次対馬市総合計画に掲げる4つの挑戦からなる「自立と循環の宝の島 つしま」と連動した本市ならではの、「なりわいづくり分野」「交流・移住・定住分野」「結婚・出産・子育て環境分野」「高齢者のいきがづくり・住みやすいまちづくり分野」の4つの重点戦略及び必要な施策・事業の基本的な考え方を示す第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、現在、その取組を推進しているところであります。

具体的な取組についてをお尋ねでございますので紹介いたしますと、まず、なりわいづくり分野につきましては、重点戦略1、対馬ならではの雇用・なりわいを創出するとして、新規創業や事業拡大を行う個人及び事業者に対する設備導入や人件費等の助成、創業や新商品の開発等を考えている方向へのセミナーの開催やアドバイザーの派遣に取り組んでおります。

なお、支援事業者に対しては、事業継続のためのフォローアップも行っております。

また、企業誘致においては、今議会に条例改正の議案を上程しており、奨励措置の拡充、要件緩和により、さらに企業誘致を促進していくこととしており、そのほかにも農林水産業従事者等の所得向上及びU I ターン者の生活の安定のため第1次産業に加えて副業を行う方を対象に、初期投資に対し、一定の支援を行うための制度の構築に向けて取り組んでいるところでございます。

次に、交流・移住・定住分野については、重点戦略2、島の魅力・独自性を生かした交流・移住・定住を拡大するとして、都市部の小・中学生を受け入れ、対馬の風土・環境を通して心身ともに健康な児童・生徒の育成を図る島っこ留学推進事業、持続可能なしまづくりを担う人材の育成を目的とする、島づくり人材育成事業等を実施し、関係人口・移住者等の増加を目指しております。

また、移住希望者への情報発信、空き家バンク制度、お試し住宅、定住支援住宅の整備、移住相談会への参加などにも取り組んでおり、移住者に対して、ふるさと就職奨励補助金、結婚移住奨励補助金、しま暮らし支援補助金、奨学金返還支援補助金などの支援により、3年間で395人の方が対馬市に移住してきております。

さらに、市が契約した陸上の指導者の高校への派遣や高校部活動の強化のため、島外への遠

征・合宿等に要する経費を助成することで、高校の魅力化、保護者負担の軽減を図り、島内高校への進学率の向上を図っております。

次に、結婚・出産・子育て環境分野については、重点戦略3、安心して結婚・出産・子育てが出来る環境を創出するとして、市内男女の未婚・晩婚化対策のため、出会いの場創出から交際・結婚までのフォローアップを実施する縁結びプロジェクト事業を実施しております。

また、働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組む企業を市が認定し、支援する認定制度や、経営者が働きやすい職場づくりに取り組むことを宣言してもらい、支援することで、出産・子育てがしやすい環境を民間企業にも働きかけていく予定であります。

次に、高齢者のいきがいづくり・住みやすいまちづくり分野については、重点戦略4、高齢者が健康で生きがいを感じられる環境を創るとして、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対して、できる範囲で手助けをする認知症サポーターの養成事業や、高齢者が技術を生かして収入につなげるためのシルバー人材センターの運営補助を行っており、さらにコミュニティバスによる交通・買物支援等の生活支援にも取り組んでおります。

また、医療と介護がスムーズに連携するよう、相談や情報提供を行い、それぞれの機関が役割を果たすことで、適切な治療・介護・サポートが受けられるよう、在宅医療・介護連携推進事業を実施しております。

人口減少抑制対策に効く特効薬はないということではありますが、対馬市総合戦略推進会議をはじめとした様々な御意見、お力添えをいただきながら、さらに取組を進め、子どもから高齢者までが住み続けられる持続可能な島を目指すために、第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略一つ一つの事業を着実に進めていくことが人口減少の抑制につながるものというふうに考えているところでございます。

次に、2点目の「よりあい処つしま」の10年目の運営状況についてでございますが、「よりあい処つしま」は、福岡市において対馬の観光や物産の情報を発信する拠点として、平成25年11月22日に博多駅前に開設し、令和2年4月に現在の博多区築港本町に移転いたしました。10年間で22万人を超える方に来店いただいております、情報発信の拠点として、また、対馬出身者や対馬に興味がある方の寄り合いの場として、アンテナショップの機能を発揮しております。

伊原議員が御質問の九州場所開催期間中と10月における「よりあい処つしま」の営業実態について、飲食と物産販売の合計で申し上げます。

来店者数は、10月が2,420人で1日平均106人に対し、九州場所開催中の15日間は1,539人で1日平均131人です。1日当たりの売上げは、10月が約26万5,000円で、九州場所開催期間中は約29万1,000円、客単価は10月が1,968円に対し、九州場所期間中は2,097円となっております。

九州場所は2週間にわたって開催されますので、PRの絶好の機会と捉えております。

また、「よりあい処つしま」の周辺には大型のコンベンション施設が4つあり、今月末は福岡モビリティショー、1月にはMISIAのライブなど、展示会、コンサート、学会がめじろ押しであり、全国各地から多くの人が集まります。

今後も対馬観光物産協会と連携しながら、「よりあい処つしま」を拠点に、対馬の情報発信に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ありがとうございます。

それでは、1点目の対馬市長期人口ビジョンの展望の中で、4つの重点項目がございました。

なりわいづくり分野につきましては、対馬ならではのいろんな事業展開をなされとると、新規の創業の助成だとか、それから企業誘致の関係だとか、この企業誘致もそうでしょうけど、ある程度、継続的な事業展開ができるように本来すべきだと思います。

ここ5年間でもよろしゅうございますけれども、先ほど新規事業のほうは何件程度ございましたでしょう。この5年間で結構です。トータルでも結構です。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、令和2年から令和4年の3年間で集計をしておりますけども、こちらでよろしいでしょうか。いいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

まず、雇用機会拡充支援事業関係、創業等支援事業関係では、令和4年が新規創業1件、新規雇用者32名でありまして、これが令和2年から令和4年の3年間になりますと、新規創業が6件、新規雇用者が84人でございます。

それから企業誘致の奨励事業でございますけども、令和4年は、訪問企業3社だけでございました。2年から4年までの3年間では5社程度訪問をしているということでございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） なりわいづくりににつきましては、ある程度、新規の事業があつて、雇用もそれなりに今あるということで、若干ですけど、安心をいたしました。

他の自治体との比較はちょっといたしませんけれども、特に昨日も話が少し出ていました五島地区ですよね。勢いが少し若干、当地区と比べて、勢いがちょっと違うなという気がいたしております。それはそれで選ぶ側の問題で、問題というか、いろいろありましようけれども、本市にとって、これだけの人口が減少している中で、何を特化して、増加に向けた取組が必要かなというふうに考えられますけれど、人口減少につきましては、本市のみならず、国内的にも非常に厳しいと。先ほど子どもの数の減少を話をしましたけれども、これはやっぱり実態ですね。本市で

も人口減少かれこれ話が出ますけど、それはまたちょっと後で話をしますけれども、大変な状況と言えるのは間違いございません。

それで、第2期の総合戦略も策定されまして、昨日、担当の方からその概要が報告をされました。

目標に向けて評価指標が策定されていますが、要は人口減少をどう食い止めることができるか、大変重要な課題と言えます。市長さんも頭の痛いところでしょう。特に子育て環境分野は、これ後で言いますけれども、そのあたりも含めて、このなりわいづくりにつきましても、大体それなりに事業展開ができるような体制づくりがなされているということでございましたので、もうそれについては、今後またしっかりした取組をしていただければと思っております。

それから2番目の交流・移住・定住分野も、これにつきましても、対馬ならではの独自性、それから都市部からの児童受入れ、住宅の提供など、それなりに対応なされておりますけれども、今、都市部からの児童の受入れはゼロじゃないかと思えます。そのあたりはどうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かにですね、令和4年度におきましては、現在、この島っこ留学在籍者数は1名という報告を受けております。これまで令和2年から4年の3年間の累計では16人になっておりましたけれども、里親等の関係もございまして、今は1名ということで、これではいけないというようなことで、今後、孫戻りの留学も含めることがまず1点。

そして、これまでは、小規模の学校のみを対象としておりましたけれども、これを全島に広げて、島っこ留学を拡大していこうということで、取り組むように計画しているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） いろいろ大変とは思いますが、しっかりとした取組をしていただければなと思っております。

それから、昨日の報道でございましたけれども、子育て環境分野の中で、国は異次元の少子化対策として、3人以上の子どもがいる多子世帯の大学授業料無料化とする方針を打ち出したと。こういった流れの中で、この展望1から4の中で、1から3の状況を少しグラフで資料を作っておりますので説明したいと思います。

ここで、参考資料、御確認をお願いしたいと思います。

このグラフは、昨年12月から本年11月までの1年間の転入・転出・出生・死亡者数を月平均に表したグラフです。転入87名、転出110名、里帰り分娩を含めた出生11名、亡くなられた方は44名となっております。亡くなられた方の中には、コロナウイルス感染症の罹患も含まれているのではないかと推察をしています。4月は、異動による転入318名、進学などによる転出545名で、転入数と比較しますと転出者数は235名で、転入者数を大きく上回ってい

ます。このことは例年同様の数値で推移していることではないでしょうか。

対馬市長期人口ビジョン、また、対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略をベースに取り組んでありますが、このような実態をどのように感じられているでしょうか。市長、お答えをお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かにこの表を見ましても、大変厳しい状況ではあるというふうには考えております。ただし、今、この計画をつくる段階で、社人研による人口推計では、2025年では2万4,876人でございました。これは総合戦略とか、何も実施をしないときには、ここまで減るんですよというようなことでございますが、これが総合戦略を実施しますと約2万6,700人まで抑制をするというような計画でございました。

今、2023年の段階で2万8,000人を若干切ったような段階でございますので、計画的には、このまち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、大体、今、予定は進んでいるのかなと思っております。ただし、また今後いかにこの転入を増やして、転出を減らすかということにも努力をしていかなければならないと考えておりますので、このことにつきましては、今現在、県のほうとも連携しまして、転出するときは、どのようなことで転出をされるのか、こちら辺をアンケートで集計をしまして、今後の施策に生かしてまいりたいという計画を持っております。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ありがとうございます。確かに転出なされる方々には様々な諸事情がございましょうけれども、過去の例を言いますと、やはり仕事が業務に限られとることと、当然、進学等はやむを得ない状況下でございますけれども、進学後に、卒業後に、なるべく島にUターンすると、Iターンするというような組織づくり、チームづくりも必要かと思っております。このことにつきましては、いろんな努力はされていると思っております。本市のみならず、他の行政も同様の苦しみを味わっているんじゃないかと思っております。

国や県が進めている方針に沿って進めていることは、十分理解をしております。

対馬市独自の長期人口ビジョンに沿った合計特殊出生率は、2.18から2.42が目標で今されております。平成7年ですか。昨日の資料でしたか、令和4年の実績で合計特殊出生率は1.4じゃなかったですか。1.4と思っておりますけど。ちょっとこれ昨日の資料に探したんですけど、たしか1.4、随分乖離した数値じゃないかと思っております。先ほどグラフでも御説明しましたがけれども、月平均で11名、これは里帰り分娩も入った数値ですけれども、非常に寂しい限りですね。従来ですと20名以上が大体、月平均出生されておりました。その中にも当然、里帰りで分娩された方、数値も入っておりましたけれども、少し勢いのある島であったのではないかなというふうに私も感じております。

合計特殊出生率は、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの平均子ども数に相当するということと言われておりました。

国内の状況を見てみますと、国内では、合計特殊出生率は1.26で、前年の1.30より低下し、過去最低とのこと。国も非常に厳しい状況です。地方もそうです。都会も、東京、大阪、政令都市を除くとほとんどこういう状況やないかなと思っております。これはもう国の施策というよりも、それぞれ地域の施策の中で、こういった状況下に陥っているということは十分市長さんも御理解されておられますと思っておりますけれども。

それから、悲しいことですが、何回も言いますが、子どもの数が年々減少傾向にあるということは事実でございますので、このことを今後どうするかということが一番大事な政治施策の中で取り組むべき重点項目ではないかと思っております。3期目の一つの戦略の中にも、このことを十二分に入れられて、そして人口減少対策というよりも、子ども・子育て世帯の支援をどうするかと、これが一番じゃないかと思っております。これは当然Uターンも、いい施策をされれば、Uターンも可能性もありましょうし、当然、自宅を置いて島外に出てある方もいらっしゃるでしょうし、仕事がないと、こういったもろもろの今の状況下で島外に出らざるを得ないようなこともございますので、一つの施策として進めていただければなと思っております。

それから4点目につきましては、高齢者も今いろんな、先ほど少し紹介しましたけれども、グラウンドゴルフだとか、ゲートボールだとか、それぞれの定期的に勤しんである高齢者もいらっしゃるし、入院だとか、それから施設の入所だとか、やむなくなされている方、両極端ですけど、私たちもそれなりに日常の生活が継続してできるような高齢者になりたいなど、私も来年3月、70になります。70歳過ぎてどういう状況下で今後、生活できるのか。この島で私も先祖を守る立場でございますので、このまま島で生活することを考えております。

市長さんにつきましては、島で、そういった島づくりも大変でしょうけれども、生活しやすい環境づくり、これをひとつよろしくお願いをしたいと、特に子どもさんも含めてですね、高齢者も含めて、それから私たちみたいな地元の人たちの状況も踏まえて、しっかりと取り組んでいただければなと思っております。

1点目につきましては、以上でございます。

それから2点目でございます。

アンテナショップは、平成25年ですか、11月に博多駅前に開設をされて、今回、11月開催の大相撲九州場所の会場前に移転して3年目ということで、非常にアンテナショップとしては、ある程度、今後の継続も視野に入れた取組がなされているんじゃないかと思っております。

特に、11月開催の九州場所につきましては、若手の力士の台頭で大いに盛り上がりました。

私もテレビでくぎづけになったところでございます。特に九州場所につきましては、クエですか。対馬産のアラ鍋、アラも、非常に消費が高かったんじゃないかと思っております。福岡、福博の町は大いに盛り上がっておりました。非常によろしい、いいことでございます。

特に先月ですか、開設後の10周年の記念式典が開催をされておりました。私も報道で、新聞で確認をいたしております。移転先は市内ですので、博多駅前よりも当然、利便性から考えると若干低いのかなと思えますけれども、利用者数も増加傾向にあるという御報告がありました。

10年間で延べ22万人の方が来店をされた。特に九州場所の時点では、10月中は1日106名、それからイベント中、九州場所のイベント中は1日137名ということで、若干増えておりますけれども、それから客単価につきましては、約2,000円台ということでございますが、ちょっと確認ですけど、コロナ禍で客数の減少時があったと思います。コロナ禍、当然ですね、これはもうアンテナショップのみならずですよ、飲食事業も大変な状況やなかったかと思っております。

例えば、このコロナ禍で客数が減ったと、それから客単価も若干マイナス状況であったと、このことで、例えば売上げを伸ばす工夫、そのあたりを何かなされたかどうか、担当部長さんでもよろしゅうございますけれども、ちょっとそのあたりをお聞かせをお願いしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かにこのコロナ禍によりまして大変厳しい状況であったということは、私のほうも報告がっております。詳細につきましては、担当部長のほうから答えさせていただきます。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） お答えいたします。

コロナ禍によるお客様のなかなか厳しい状況から、改善をしていく取組でございますけれども、毎月のように対馬食材フェアということで、旬ごとの食材を使ったコース料理とか、そういうものを予約のコースとして毎月行っておりますし、特に今月12月ですけども、冬の食フェアということで、12月22日から24日まで、特別なコースを準備して予約をしていただけるように工夫をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ありがとうございます。いろんな創意工夫をされているということにつきましては、十分理解をできます。10年たって、今後の10年間をどうするか、ここが一番重要なことじゃないかと思っております。特に福岡市内、そういった飲食業も大変に多うございますので、こういった特色を前面に出すかということでございます。

近隣は少し大型のいろんな施設もあるということで、特にこのコロナ禍で売上げが少し減少したということでありますと、例えばデリバリーとか、そのあたりの可能性はあったのか。それから、もし、今後、その計画としてあるのか、そのあたり少しお願いしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） お答えいたします。

デリバリーということでございますけども、これまで特段は行ってはおりませんけども、今後ニーズがあれば、そのようなことも検討しなければいけないとは思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 率直な話、民間と比較しますと、なかなかやっぱり前面に出して進めるということは大変と思っております。しかし、アンテナショップとしての機能を発揮するためには、それら特色を生かして進めるべきやと思っておりますので、近隣の方々、特に福岡市内の方々が、その、対馬のアンテナショップとして認知度はどうなのかなど。認知度ですね。福岡対馬会ですか、年1回程度開かれておりますけれども、その方々も当然アンテナショップということは認知はなされていると思っておりますので、その一般の方々がですね、先ほど対馬の食材の販売も売店でなされているということでございますけれども、新鮮食材をいかに食卓に送り届けるか、こういった努力も必要かと思っておりますので、その中にフェアを月に1回程度なされているということでございますので、このあたりを継続的にして認知度を高めるということが非常に重要なことだと思っております。特にやっぱり今アンテナショップは他の五島も壱岐もないんですかね、対馬だけですかね。そして東京のほうには壱岐が出店なされているというふうに聞いておりますけれども、移転して、また新たなところに移転して3年目ということですので、徐々に認知度も上がって、それから新鮮な、そういった対馬独自の魚介類、これを提供しなければならぬと。一番、対馬の食材の中で一番、今、人気商品と申しますか、それについては何か、何がありますか、ちょっとお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） もちろん今の人気商品はやっぱりアナゴ関係だというふうには聞いております。それと今が旬のクエですか、そこら辺だということに聞いております。

それと今現在、「よりあい処つしま」、そして福岡事務所のほうと協力いたしまして、橋本というんですか、七隈の先のほうですね、あちらのほうでも月に1回程度、数回ですね、特産品販売を始めたというようなことを一応聞いております。これがまた軌道に乗ってくれば、もう少し、この認知度が上がっていくのかなというふうには思っております。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 人気商品、アナゴとクエということで、これ安定供給がいかにか
きるかと。そういったなりわいをなされている漁業者の方々も専門的にされているんじゃないか
と、漁業されているんじゃないかと思えます。これは地域商社、対馬の地域商社から提供してい
るんですか。漁業者単独やなくて。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） 食材、アナゴですか、アナゴにつきましては、おそらく
おっしゃられるように地域商社からの仕入れが多いとは思いますが、それだけに限らず、そ
のとき手に入るもの、手に入るところからという考え方でおります。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 何しろ生物ですから、当然しっかりとした提供をしなければ、一
旦マイナス要素になると、もうそれで終わりです。はっきり申しまして。いろいろ食材、取扱い
大変だと思いますけれども、今の所長さんとそれから観光物産協会の職員さんですか、主にいらっ
しゃるみたいですけど、福岡の土地で今後、対馬の名前をアピールできるようにしっかりと取組
をしていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで伊原徹君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は11時5分からとします。

午前10時48分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 皆様、こんにちは。私は、かつて企業誘致という言葉で一般質
問をしたことはございませんが、このたびは少しボリュームのある一般質問となります。

後に詳しく説明もいたしますが、ただいまから通告に従い市政一般質問を行います。

企業誘致について2点ほど、市長にお尋ねをいたします。

1つは、株式会社福岡魚市場が対馬比田勝港を中心とし、韓国との魚類の輸出入、いわゆる貿
易の構想をこれが浮上しております。

このことについては、去る11月9日、福岡魚市場社長、川端淳様が市役所を対馬市長を訪ね
ていると思われま。このことは承知しているところでありますが、市長はこのことについて、
どのようなことが話され、そして、どのような思いで、今後このことに対応しようと思うのか。

このことについてお尋ねをしたいと思います。

また、この背景には、上対馬町泉地区で創業しているジャパンシーフーズのアジ・サバの加工商品の生産拡大が関連しているものと思われませんが、そのこと以外の構想があり、これは過去にないビッグチャンスが私は訪れたものと思っております。

福岡魚市場と韓国のまき網を中心とする業者との間で、直接、福岡魚市場と買取りについての韓国側の取引の打診があっていた模様であります。このことから今回その構想が始まったと思われる。

概要で、数値的にはここで話していいかどうか分かりませんが、当初立ち上げに約1年間30億の約3,000トン、この取引を立ち上げたい。安定時には100億の規模にこれを持っていきたいと、このようなことが話されているようであります。

しかし、対馬の貿易港は現在、厳原港1港のみであります。仮に比田勝港に入港できず厳原港に入港した場合、海上輸送では、さらに片道80キロ、往復160キロの海上輸送。さらに陸上では、厳原から比田勝まで約90キロ足らず、このようなトラックの運搬が見込まれます。

この流通経費については大きなロスでございまして、例えば、10トン車、保冷車、これに1,000箱満載して約100円、1箱当たり100円の経費。結局、厳原から比田勝まで10トン車1台あたり10万円の経費がかかるというふうなことであります。

そして、海上輸送の船の経費、燃料代、これがかさむことになりまして、非常に比田勝港に貿易港を定めることを最終的にやらないと仕事がうまくいかない。かようなことになろうかと思えます。

このことについての詳細は、後に説明をいたしたいと思えます。

次に、東京千代田区丸の内には存在する一般社団法人島の海を豊かにする会、代表、山崎養世。この方男性ですけども、「養世」というふうな、養う世の中の世ということでございます。

この方が長崎県内のプロジェクトを立ち上げておる中で、ハウステンボスの長崎IR、カジノのことでございますが、それと五島列島において再生可能エネルギー、これを中心の島にしたいというふうなことでございます。

それと対馬が水素中心のカーボンニュートラル、対馬、これを立ち上げるというふうな方向でございまして。

この対馬の場合、風力発電及び太陽光の発電により水が元となり電解、電気分解ということでございますが、これにより水素を製造し、この施設整備、保存タンクの確保、蓄電池の生産等、投資額は約1兆円とも言われております。対馬島に水素研究所を設置し、カナダより専門科学者が近年この島に調査に入り事業を進める方針としておるそうであります。

なお、資金提供総額は35兆円を県内の事業箇所にしており、そういうふうなことが資料に記

載されております。

このことについては、私もそんな深い勉強がしておりません。その辺で市長にこのことをぶつけていいのかなと思うんですけども、取りあえず今の段階で情報を得ておるならば、市長の見解をただしたい。このように思います。よろしくお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

初めに企業誘致についてでございますが、まず韓国との水産物の貿易につきましては、現在、主に博多港等を経由しての輸出入が行われておりますが、その取引につきましては、輸出はほぼ少量であり、輸入については、1億8,000万円から3億1,000万円程度となっているところでございます。

その一因といたしまして、対馬の全体漁獲量を消費できる国内での販路が確立されており、一定の単価につながっていることに対し、韓国貿易については、輸送コストや価格面での優位性が低かったことなどが上げられます。

また、近年の水産情勢といたしまして、長引く燃油価格の高騰に加えて、餌料、加工原料の高騰等、コスト増大の影響を強く受ける厳しい状況が継続しており、資源量、漁獲量が減少する中で、いかに収益性の高い漁業へ転換するかが喫緊の課題となっております。

これらの課題解決に向けては、多様なニーズに対応できる柔軟な発想が求められることとなり、これまでの国内目線だけでなく、海外等、幅広い選択肢を持ちながら、漁業関係者にとって、収益性の高い販路拡大に取り組む必要があると考えております。

議員御質問の韓国からのアジ・サバなどの輸入については、先月、民間事業者の訪問を受け、比田勝港における貿易の可能性について意見交換を行ったところであります。

輸入魚種につきましては、主に加工原料としての活用が想定されるところでありますが、輸出入両者にとって好条件で事業規模拡大につながるものであれば、企業参入も含め雇用の拡大等、波及効果は大きいものと思われまます。

また、比田勝港が本土・韓国間の輸送ルートの中継寄港地となれば、対馬の事業者にとって本土を経由する必要がなくなり、輸送時間等コストの縮減、鮮度保持等、メリットは大きく、地理特性を十分に発揮できるものと期待するところであります。

しかしながら、現在、比田勝港は政令で定める貨物の輸出入及び外国貿易船の入出港が可能な港となっていないため、韓国貿易の可能性を検討する上で開港に向けての要件整理、保税倉庫の必要性、C I Q体制の整備等、多くの課題を解決する必要があります。

現在はあくまでも可能性検討の段階でありますので、今後、民間事業者から具体案が示されれば、C I Q等、国の機関及び港湾管理に係る長崎県などとの連携強化に努め、その実効性、課題

等を抽出しながら必要に応じて関係者間で協議を進めてまいりたいと考えております。

次に、一般社団法人島の海と陸を豊かにする会が計画しておられます、本市における再生可能エネルギーの開発に係る市の捉え方に関する質問でございますが、対馬市内外のエネルギー関連の団体や研究者など約60人の参加により同会が設立されていること、また、同会が人口減少や農林水産業の衰退、海岸漂着ごみ問題といった本市を取り巻く様々な課題解決を図る対馬プロジェクトの一環として太陽光発電によるウニ、ナマコ等の陸上養殖に取り組む計画や、集落の用水路などを利用した中小水力発電設備、亜臨界水を用いたごみ処理施設の設備、大規模洋上風力発電の段階的整備等を掲げていることについては、新聞報道等で承知はしておりましたが、先日、東京大学をはじめとする関係者の皆様が来庁され、取組概要の総括的な説明を受けたところでございます。

一般社団法人島の海と陸を豊かにする会が掲げておられます構想内容に係る市の考え方、捉え方でございますが、本市におきましても、これまで市内温泉施設への木質バイオマスボイラーを導入するとともに、次年度以降においては市公用車における段階的な電気自動車の導入を計画しており、脱炭素化を推進していく方針でありますので、今後、具体的な協力や連携等のお話があった場合には、取組の詳細等を検討しながら、今後、適切に対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） どうもありがとうございました。

まず、福岡魚市の構想は、川端社長様がちょうど市に行かれる前に、ちょっとした話の協議の場が15分ぐらいあったんですが、そこにちょっと顔を出す用がございまして、先ほどの言葉が、30億から100億の単位の取引になるだろうというふうなことであります。それと、ジャパンシーフーズの計画とこれはもともと連動した中で事が進んだということも承知しております。

この背景をちょっと確認いたしますが、ジャパンシーフーズ泉工場、これは令和3年度の実数ということですが、作業従事者約40人、業種、アジ・サバ加工用としてのことでございます。

売上げが当時8億円。ジャパンシーフーズの全体の20%に匹敵する。仕入れ先は長崎県内の松浦、その他、それと佐賀県唐津、そして、福岡魚市場ですね。

これを地元、上対馬南漁協で行われている、まき網操業のことなんですが、ここに船団が2船団ある中で、年間約700トンの水揚げをしておると。これを全てジャパンシーフーズの原料として買い取りをしたいというふうなことがあったんですが、これが協議は最終的にできなかったというふうなことをある中で、福岡魚市が韓国からアジ・サバの直接買取りを要請された中

で、このことを対馬に振り向けたような形になっております。

一つの私は流通のチャンスの芽が出てきたと見ているんです。

数字から言うて、魚市場、こちらに、福岡に取るよりは対馬に上げたほうがいいじゃないかというの理想です。どっちも。わざわざ福岡から比田勝港に、比田勝港じゃなくて、比田勝にですね、あるいは泉に、結局フェリーを、あるいは九州本土のトラックを經由して対馬に入れる。大きな経費のロスであります。これを一括、流通経路を変えて対馬に上げればいいじゃないかと。何も競りをするんじゃないで、それは買い取って、韓国のまき網の業者の魚を買い取って、福岡魚市がですよ。そこが今回の大きく強いところなんです。これは民間がやった場合、難しいんですけども、魚市が動くということは、漁民にとってはベストの状態。そう思いますよ。

そこで話がまとまったことであります。このことが背景にございますが、最終的にジャパンシーフーズは第2工場を拡大、既に用地は確保して、それで最終的に売上げ40億が可能な対馬で規模を確定したい。そして最終的には150人の雇用がここに確立する。これは夢の話じゃなくて、この取引が成立すれば、即そういうふうなことをやっていく状態がありますので、その辺はまた皆さんの話をよく、市長聞かれまして、どうしても進めないといかんということであります。対馬の若い人が40人の中はかなりおりまして、2年前に産業建設常任委員会の所管事務調査で現地の人々を私は見たわけですが、やはり企業に育った子どもたちの目は非常に輝いて、仕事に対する真剣さを目の当たりにしたわけで、非常に対馬がよくなる一つの材料やなということを私は思いました。

これが、40人が150人になるということは、さらにですね、私はかつてない規模の就業がここに確立する。これは非常に対馬にとってキホンになる、私はタイプになると思いますが、市長はこのことについてどう思われますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私も実際に福岡魚市の社長とお会いできまして、そのような計画をお聞きいたしました。私自身も大変歓迎をしているところでありまして、ぜひ、この計画が実現することを望んでおります。

ただ、その中で、今現在、その陸揚げしたいとする比田勝港が貿易に関して、できる港じゃない。不開港であります。どうかして、ここ比田勝港を開港にするためには、輸出入の船の隻数が1年間に合計で、輸出入で11隻。そして、この輸出入関係の貨物の合計額が5,000万円を超えるという条件が出されております。このことは、今の計画が実行に移されれば、当初のおそらく何年間かは厳原港で一旦水揚げといいますか、してから、比田勝港に運ぶ方策を取らざるを得ないのかなとは思いますが、このところについては、先ほども答弁いたしましたように、今後CIQとか、県の港湾管理者等とも十分に協議をしながら、比田勝港のほうも開港となるよう

に目指してまいりたいと思います。市といたしましても、このことについては一生懸命取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） そのことで、私、12月1日に勉強、そして、どういうふうなことがそういう開港、港を開く、輸入輸出ができる貿易港のお墨つきが来るのか。このことで、正式名称は、財務省門司税関厳原税関支署というふうな名称になります。その署長さん、支署長さんが福本様、それから上席管理官アサクラ様と統括監視官トヨタ様、トダ様と4名の方が、私、電話1本やったんですが、わざわざ説明の席に座っていただきですね、4人の方から、いろいろなことを教わりました。

その港の許可、これについては、先ほど市長が言われたように、開港基準をクリアせないかんというふうなことなんですが、ただ、明文規定はなしというようなことになっております。

開港は、さきのとおり貨物の輸出及び輸入並びに外国貿易船の入港及び出港その他事情を勘案して定めることとされている。具体的には、開港基準を上回っていることは当然のこととして、外国貿易船の入港隻数、輸出入の申告件数などの行政需要や港湾施設や背後地の整備状況、今後の利用見込みなど、さらには取締り上の支障の有無、税関の定員事情等を総合的に考慮して判断されるというふうなことが明記されとる中で、比田勝港は既に、船の、乗船、下船の中のそういうふうな職員は十分満たしておるから、ここにおいては問題ありませんよと。あとは検疫における、植物検疫等を含めた中での検査というふうなことだけやから、要は手続をするような、開港という、港を開いて貿易港にする手続を進めることを明言されまして、先ほど言いますように、これは参考ですが、開港に向けた地方自治体の取組例ということで書かれておりますが、外国貿易船の出港実績、入港、輸出入実績の積み上げをということにありますけども、これは厳原港と比田勝港の要は2港を造るという中での努力をしてくださいという意味ということでは先ほど言うたことでありますが、ただしですね、実績を積むことと、これは大きな企業が確定して、間違いなく物を運びますというふうなことが、今回はちょっと違うタイプになりますから、こここのところを早速政治の活動としてですね、まず、厳原税関支署、この計画を樹立された中で説明に行かれること、それから門司税関に行かれること、そして財務省に行かれること、このことを確認も取っております。そういうふうなことをしてくださいということになるわけで、それと先ほど港湾の管理。これは県の港湾管理課というふうに言葉があったわけですが、最終的には国は国土交通省ということになるろうと思いますが、そういうふうなことを進めることを早急にまとめて、どれだけの量が動くかということではですね、先ほど言いましたように、今の状態から10倍以上のことがありますし、10倍どころか100倍までないとしても、大きな品が動くということで、対馬

の流通が変わるような話でございます。ここのところをしっかりと捉えて、即計画樹立されて、魚市と協議されて、そして地元の体制を漁協も含めて話し合いをして、そういう倉庫的な保管庫もしくは冷蔵冷凍のことをどうするか、打合せされて、これで決まれば、早速そういうふうな国への省庁への手続、国、もしくは、そういう地方機関の協議に即行かれて前向きな回答を取っていただきたい。かように思います。

そのことについて、そうせな、ならないかんということを手言っておられましたから省略していいんですが、その中でですね——ちょっと今のことについては、お互いに前に進むためにはそういうことをやらないかんということで確認は取りましたから、ちょっと省略いたしましょう。

魚市ですね、考えの、私もちょっと僅か15分ぐらいの間に聞いたんですが、何もアジとサバだけじゃなくて、こんなことをおっしゃられていましたよ。明太子の原料になるタラの卵ですか。これを要は取り扱うことも構想にあると。対馬にという話ですよ。そういうふうなことが描いており、なおかつ、こんなことを言っていましたよ。韓国は今、日本の握り寿司ブームである。このネタが足りない。だから、対馬で取れた魚を韓国に輸出することを考えたいと、こう言っていました。これは、業者といえど魚市がやるんですから、そういうふうな買い取って、漁民から。だから競る場所がなくてもいいというやり方なんでしょう。だから福岡魚市の実績、取れた実績の単価に合わせて、そういうふうな協議をするんでしょう、おそらく。アジ、サバもほとんど箱物で運ぶそうです。そういうふうなことでありましたから、ここは対馬の漁民にとって、漁業にとって、大きく物は、後ろが僅か50キロ、前に百何十キロ、それは江戸時代の貿易というふうなことが、利にかなったものを運ぶという世界にちょうど私は入り込んだなと思います。市長、このことを、私はちょっと流れが変わるんじゃないかと。物の売り方が。その辺に何かございましたら御意見を賜りたい。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この計画につきましては、大変対馬にとってビッグな計画でございますので、先ほど議員のほうからも話がありましたように、早急にこのことについて、C I Qをはじめ、県の管理課関係とも協議に取りかかってまいりたいと思います。

要は、先ほども私申しましたけども、地方港湾であっても、開港が可能だということも、この前いろいろ聞いたところによりますと分かりました。

今、長崎県内で開港になっている港が重要港湾3港をはじめ地方港湾が2港でございます。そういう関係もございますので、今後、この比田勝港の開港に向けて一生懸命に積極的に取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 地元のことで私は忘れておりましたが、何も、ジャパンシーフーズだけじゃなく、地域商社、元豊玉の要は振興公社、ここにも仕入れができないという、限界があるという言い方が、私はそのときの産業建設常任委員会所管事務調査のときに、責任たる方が言っておられました。それで1億が限界ですよ。今のやり方、ずっと。

だから、こういうことが花開くようなことで、あとは商品開発を学んでやっていって、地域商社の、やはり1億どころか10億ぐらいのことに突破するようなことをするのがこういうふうな改革だと思うんですよ。私は可能と思いますよ。そういうふうなことが。ただし、ジャパンシーフーズの味つけというか、商品開発がもう全国レベルの世界です。しかし、それをまねていくような、あるいは、まねるというよりは学んでいくようなことで、地域商社も今回の問題は大きく耳を傾けて、ぜひ期待をして、私はやっていかないかん。そして、また、それをほかに関わるそういう方があれば、この輸入システムをどんどん活用して外に物を売っていく方が増えていけばいいがなど、そうなれば、比田勝の港がどんどん大きく栄えるような気がいたします。そういうことで、私は、くどいようですが、財務省のほうに行かれて、門司税関に行かれて、熱弁されて、短期間で許可が下りるような行為を、気持ちを出してほしい。これに大きな勝負をかけて、今までの対馬の漁業が変わっていくような姿をぜひ自負として責任を持っていただきたい。かように思います。

内容的には、もう話の中身はおおむね言ってしまったんですけども、何かほかにございましたら、市長、何かございましたら。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私、このことに関しまして一番心配していたのが、地方港湾で開港が可能かどうかというのを一番心配していたんですけど、以前は比田勝港のほうでも貿易をやっておりましたので、おそらくこの関係で、その当時は比田勝港としても、現在の不開港じゃなくて、開港として貿易をされていたんじゃないかなというふうに思っております。そういう関係もありまして、今後、今、議員からも指摘ありましたように、できる限りですね、早い段階と申しましようか、スピーディーに動いてまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 福岡魚市の企業誘致という言葉で私はいいと思います。それを望みたいということでもありますから、ひとつ連携をして、受け入れる体制をつくって、地元の漁業協同組合関係者と十分話をして、行政ばかりが先に行かんように、また話合いの場を持っていただきたい。

それと、次に水素のことについて、私も勉強不足で、このことをこういう資料から見て、一般質問ということで、まだまだ勉強が足らん中で、軽々しい話ではできんとですが、ただもう既にそういうことをしようというふうな計画ができていた資料を見たときに、今からの産業、エネルギー革命、いろいろある中で、水素というのは水から電気分解をして水素を取り出すと。その電力は太陽光もしくは風力発電というふうなことを考えておるみたいです。

このことについて、お互いに、今の水素を作る、対馬でそういうことをできるのかという、まだ分からない未知の世界でございますが、ここらについてはどうですか。私も非常に今から勉強せないかんという思いがあるんですが、ただ、背景に、方向性がうまくできれば、金目にいとわなというふうな内容のようであります。

だから、これもまた、よく調べて、可能性があれば前に進まないかんというふうなことで、研究所を造らないかんというふうなことで、市が関わることじゃなくて、こういう民間団体がやっっていくそうなんですが、ここらの動きをやはりもっと捉えていかないかんと思いますが、市長、その辺距離がかなりお互いにあると思うんですけども、どんなもんですか。その技術的なことについていろいろ難しいことがあると思いますが、ちょっとはコメントがあれば。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この洋上風力発電関係に関しましては、もう長崎県内でも五島が先はかなり進んでおりますけども、対馬市といたしましても、今ここは独立電源の島でございます。そういう関係でも洋上風力発電の今、可能性を調査するために環境省の補助をいただきながら洋上調査とか、いろいろな風況調査とか、そういったところを実施している状況でございます。

その調査のほうは、ある程度終わったら、このほかにまた公募等をかけながら、民間等のほうに洋上風力発電の実施に向けて公募をかけていきたいなどは思っておりますけども、対馬の場合、今のところ、その規模にもよるんでしょうが、作った電気を島外に売るためには、ここから本土のほうに海底ケーブルを引かなければなりません。そのことも含めまして、ただ、その洋上風力発電をされる場合は、どうしても対馬島内だけでの電力が余ったときには、それを水素の製造に向けたいというような話は以前から私のほうも聞いております。そういうことでもありますので、この可能性はかなりあろうかとは思いますが、今後、脱炭素の島に向けて、洋上風力発電等の再生可能エネルギー、そしてまた、こういったいろいろな脱炭素的な事業を進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君君。

○議員（16番 大浦 孝司君） どうもありがとうございました。先ほどの比田勝港の貿易港としての港のことを少し私は心配をしている点が1点あります。

せんだって、厚生常任委員会の所管事務調査、上対馬病院の建て替えにおいて、3つの候補地

があると。そして、そのうち、ちょうど網代、網代は埋め立てた場所ですね、国内の航路の整備された建物の先の空き地の方向で、病院の候補の一候補地であると。その他、比田勝中学校の左側の向こう手が、山手のほうに高台にどうかと。そういうふうなことで、私は、2か所について、そういうことがあるんだな。しかし、貿易の港の問題が浮上した場合に、ここで競合せやせんかな。そんな感じがいたしまして、これ早めに、もう一遍、上対馬のあるいは北部の発展を考えた場合、どういうふうな絵を描いたがいいのか。もう一遍そこらあたりを練り直していかないかんことがあるんじゃないかなという懸念をしておりました。

だから、一番環境的に、お金もかからんのは、網代の広場が病院の建てる場所としてはいいかもしれません。ただ貿易の問題が浮上したときに、これがどうなるかというのは、私は引っかかるばいなと思うとったんですが、そこらをひとつ対馬市としては十分話を振り出しの中で深い考えの中で決断をせないかんだらうというふうに思いますが、これは余分ですけども、そういうふうなことも、早めにはっきりしていかないかんことであろうと、こういうふうに心配しております。

そういうことを今日は中に入ることなく、そのくらいの程度で私は終わりますが、ひとつ、慎重な考えの中で対応していただきたい。港の用地がそんなにあるのかというのは、あまり横幅がない場所ですから、縦長でありますから、船の往来の貨物船のどこにどうというようなことが出てきましようが、そこらあたりを少しチェックしていただきたい。かように思います。

残り3分でございますが、私の一般質問はこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は午後1時5分からといたします。

午前11時53分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。波田政和君から早退の届出があつております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 会派、市民協働、9番議員の脇本啓喜です。

まずは、前回の9月定例会最終日において、高レベル放射性廃棄物（核のごみ）最終処分場誘致に、比田勝市長が、議会が誘致推進の請願を採択したにもかかわらず、誘致反対の判断をなされたことについては敬意を表します。しかし、3月定例会で小職が一般質問を行った時点で、

「誘致反対を掲げて当選したのであるから、少なくとも私の任期中は文献調査に応募しない」と市長が明言していれば、御自身が恐れる市民の分断を増幅させずに済んだと思います。遅きに失したことは十分自覚すべきであり、そもそも、しっかりと市政運営ができていれば、核のごみ最終処分場を誘致しようなどという動きを再燃させずに済んだのではないかと思います。

一方、誘致反対に御協力いただいた市民の皆様には、この場を借りて心より厚く御礼を申し上げます。

市民の分断という大きな代償を払うことになりましたが、今後の対馬が持続可能な島を目指していく上で、大きな収穫を得られたと私は感じています。それは、これまでは市民が何を言おうとも政治を変えられないと多くの市民は諦めていたようですが、この誘致反対運動を通じて、仲間をつくって行動を起こせば政治を動かせるという成功体験を積むことができたことです。市長が核のごみ最終処分場誘致拒否を明言した時点で、フェーズが大きく変わったと私は認識しています。対馬市民からも、島外の方々からも、対馬市は核のごみ最終処分場誘致を拒否して本当に正解だったと評価される持続可能な島を目指していくことが求められると思います。

ここで、特に誘致反対運動に御協力いただいた市民の皆様には訴えたい。比田勝市長が誘致反対の判断をしたことは評価してもよいとしても、それだけをもって3選支持とするのはいかなものかだと思います。

市民がこの誘致反対運動を通じて、仲間をつくって行動を起こせば政治を動かせるという成功体験を十分に生かせる。つまり市民協働を実践できる市長が今の対馬には必要です。比田勝市政の市民協働分野に関する評価は、私は高くありません。来年3月3日投開票が迫った市長選挙最後の一般質問に当たって、比田勝市長の2期8年間の実績を検証し、また将来ビジョンはどうなのかを市民自ら判断してほしいとの思いから、今回の一般質問は行うつもりです。

ところで、核のごみ最終処分場誘致に市長が反対を表明した件に関して、今議会では複数の会派代表質問や一般質問がありました。

中でも新政会会派代表質問において船越会長が、議会の採決結果に反する判断をした市長は議会制民主主義に反しており、通らないから出さないが、市長不信任に相当する旨、発言なさいました。会派代表質問での発言は当然会派の意向と解釈されます。我々誘致反対議員には既に覚悟を確認しております。船越新政会会長、堂々と市長不信任案を御提案ください。その際は責任持って新政会メンバー全員不信任案に賛成するようお願い計らいくださいませ。船越議員は、常識ある誘致賛成の市民はたくさんいるとおっしゃいました。不信任が成立して市長が議会を解散し、市議会議員選挙になったら、候補者全員が賛否をはっきりさせて戦おうではありませんか。

もう一つ、今議会一般質問で複数の議員から住民投票実施の提案がありました。しかし、例え、地方自治法上の要件である有権者の50分の1以上の署名が集められたとしても、対馬市市民基

本条例には住民投票条例を制定して、それに従って実施する旨、規定されているので、住民投票条例が未制定である現状の対馬市では、住民投票は実施できません。市民が誤解なさってはいけないので申し添えます。

前置きが長くなりましたが、ここから通告に従い質問を始めます。

1、就任期間2期8年間の実績に対する市長自らの評価について答弁を求めます。

(1) 第2次対馬市総合計画後期計画全体の進捗状況について、市長の自己評価を簡明に求めます。

(2) 特に、なりわいづくりに絞って、その達成状況・自己評価について、市長の答弁を求めます。

その際、同計画37ページ、将来像②地域経済が潤い続ける島で掲げている、1次産業が持続可能な形で続けられる、観光産業等で地域経済が活性化している、新産業が作られ、雇用も多く確保できている、この3項目の成果・取組状況が把握できる具体的データを示し、その検証結果を求めます。

大きな2番、3選を目指すに当たって、現段階でのマニフェストの構想について。

(1) 前項1で検証したことを踏まえて、令和6年度当初予算に反映する予定の新規事業、あるいは改善を図る重要施策があれば、市長の答弁を求めます。

(2) 地域の経済発展を図るには基幹産業を生かした施策に取り組むべきです。畑違いの企業誘致は、企業城下町のあつけない凋落や日韓関係の悪化による対馬市の官業、産業の激しい浮き沈みなど、はやりすたりが激しい令和の時代においては、特定産業に極端に依存するのはリスクが大きい。次期市長選挙に当選した場合、対馬市を持続可能な島とするための経済施策の指針について、市長の答弁を求めます。

大きな3番、持続可能な島とするための歳出削減あるいは新たな財源確保策について。

令和4年度決算ベースでは、約86%が経常経費です。つまり一般会計予算のうち、約50億円程度が自由裁量の利く予算額として残ります。また、このほか、6月定例会一般質問で取り上げた約50億円の比較的取崩し容易な基金もあります。しかし、これらの財源のみでは、対馬市を持続可能な島とするには、財源不足は否めません。これら以外の財源確保について、市長の答弁を求めます。

(1) 対馬市の財源確保あるいは域内総生産増加策について、市長の答弁を求めます。

(2) 具体的な歳出削減策について、市長の答弁を求めます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） ただいまの9番、脇本議員の質問の中で、私に対する、私が3選を目

指す上での質問について、これは私を批判する、批判と私は受け止めましたけども、この公共用の電波で放送されますこのような一般質問の中で、このような質問というのを発しても、これはよろしいのでしょうかね。

私は、この今の質問の内容については、要は私の批判、要するに、この議会の放送の中で、私の選挙妨害をするというように私は取っておりますけど、議員の皆様いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） そうですね、選挙の話は議会の中ではしないというようなことになっておりますので、立候補とか、いろいろな諸問題は。そのような規定になっていると思います。議会の中で。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 僕より先に誰か聞くんですか、一般質問なんだけど。じゃあ、僕の一般質問以外のことをするのであれば……。

○議長（初村 久藏君） いえいえ。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 時間を止めてください。

○議長（初村 久藏君） 一般質問を続けて……。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、市長が、反問権もないのに言われるのもどうかと思うんですけど、そういうふうにおっしゃるのなら、皆さんに聞くのなら、時間は止めてください。私の分じゃないんですから。市長の、首長の……。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。

午後1時17分休憩

午後1時18分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） それでは、脇本議員の質問にお答えいたします。

まず、1点目の就任期間2期8年間の実績に対する自らの評価ということでございますけども、市民主体の地域づくり、市民協働のまちづくりを推し進めるため、平成28年から10年間の第2次対馬市総合計画を策定しており、前期5年の実施状況及び評価を踏まえ、世界が取り組む課題でもあるSDGsの推進をはじめ社会情勢を見据えた計画となるように、令和2年度に総合計画を策定いたしました。

本計画の進捗としましては、現在3年目を迎え、「自立と循環の宝の島 対馬」の将来像に向けて、4つの挑戦に取り組んでいるところでございます。

まず、挑戦の一つであります、ひとづくりにつきましては、課題である若い世代の人口が極端に少なく、対馬市の人口ピラミッドのバランスを改善すべく、若者の移住・定住の推進に資する

事業として、創業支援、リモートワーク支援、しまぐらし支援、結婚移住支援等に取り組んでいるところでございます。

また、通告でございました、なりわいづくりにつきましては、地域経済が潤い続ける島を目指すために、3つの優先課題を掲げ取組を進めているところでございます。

具体的なデータを示してとのことでございますので、まず1つ目の持続可能な農林水産業を展開するという課題につきましては、水産業者や漁村への支援、農林業生産基盤整備等を実施しており、主な事業としましては、水産物の島外出荷の負担軽減を図る離島輸送コスト対策事業において、令和3年度では3万7,188トン、令和4年度では3万6,508トンの出荷に対し助成し、また新規就業者の定着促進を図る漁業就業実践研修事業において、令和3年度では4名、令和4年度では7名の新規就業者へ助成し、担い手確保・育成を図っているところでございます。

林業分野では、市営林を計画的に整備することで、木材の安定供給、持続的な森林経営と資源活用を図るため、市営林整備事業を実施しております。令和3年度では58ヘクタール、令和4年度では38.6ヘクタールの間伐を行い、健全な森林の保全にも努め、1次産業事業者の所得の向上を図っているところでございます。

2つ目の地域経済の循環の仕組みを確立するという課題につきましては、対馬の魅力発信・PR、受入れ体制の整備、地産地消の推進等を実施しており、主な事業としましては、旅行会社等に対する対馬旅行商品造成に係る対馬観光アドバイザー事業において、令和3年度では旅行社26社、令和4年度では旅行社49社へ訪問し、対馬への誘客を図っているところでございます。

また、誘客においては、対馬が古来より外交の中枢であり文化・技術の中継点であったということで、国際交流、平和学習、歴史教育などの生きた教材が豊富であり、この教育資源を生かすことに焦点を当て、修学旅行にターゲットを絞り、民泊を活用した旅行誘致の受入れ体制を図ることを目的として、教育旅行推進事業を令和3年度から実施しております。

令和3年度は23校に対してニーズ調査を実施し、令和4年度では16校訪問営業を行った結果、令和3年度ではゼロ校の実績でありましたけども、令和4年度は神奈川県から1校、愛知県から1校、大阪府から3校、延べ5校の修学旅行に、対馬に訪れられております。ちなみに、令和5年度は8校の予定と聞いております。

対馬への観光客は、令和3年度12万4,000人、令和4年度16万4,000人の誘客実績でございます。

また、観光案内板等を整備する対馬観光リニューアル事業において、令和3年度では2か所、令和4年度では3か所に設置したところでございます。

3つ目の事業を承継・拡大して雇用を創出するという課題につきましては、対馬製品の販路拡大、新規創業と事業拡大による雇用機会拡充等を実施しており、主な事業としましては、返礼品

取扱い品目拡大と対馬産品PRを図るふるさと納税返礼品事業において、令和3年度では293品目、令和4年度では394品目を登録し、対馬産品PRにつなげているところでございます。

また、雇用機会拡充支援事業において、令和3年度では、新規創業2件、事業拡大28件、雇用創出人数40人、令和4年度では、新規創業1件、事業拡大36件、雇用創出人数32人の実績であり、さらなる雇用の創出を図っているところであります。

対馬のあるべき姿である地域経済が潤い続ける島で示した3つの成果項目の、1次産業が持続可能な形で続けられる、観光産業等で地域経済が活性化している、新産業が作られ、雇用も多く確保できているにつきましては、先ほど主な事業で説明しました実績の数字での評価であれば、ある程度の効果はあったと評価できると考えております。

後期計画全体としましては、2か年が経過したところではありますが、新型コロナウイルス感染症の関係で思うような取組ができなかった事業もありましたけれども、ある程度の効果はあったと言えると思っております。

今後もみんなが主役になる社会の実現に向けて、軌道修正しながら計画終了時の令和7年度まで市民と一体となって取り組んでまいり所存であります。

次に、2点目の3選目を目指すに当たって、現段階でのマニフェスト構想についてでございますが、先般の9月定例会最終日におきまして、3選に向けた次期市長選挙への出馬表明をさせていただいたところでございます。

前回の市長選挙の折には、5つの拡大戦略を掲げ、本市のかじ取り役として一生懸命に取り組んできたところでございますが、まだまだ道半ばであり、今後も継続して取り組むべきものや、さらに強化して取り組む必要があるものなど、本市が目指す「自立と循環の宝の島 対馬」の将来像に向けて解決していかなければならない課題は、まだまだ山積している状況であります。

そのような中で、3選に向けたマニフェスト構想につきましては、2期8年間の取組や諸課題を整理しながら現在、準備しているところでございますが、対政会、新政会の質問でもお答えしましたとおり、誰一人取り残さない持続可能なしまづくりをコンセプトとして、移住・定住施策の拡大、婚活や出会いの場の増設、特定地域づくり事業協同組合を活用した担い手の拡大、出産と子育て環境の充実、離島留学制度の拡大と充実、通信環境の改善・充実によるワーケーション等の推進と誘致企業の促進、最後にSDGs推進による持続可能なしまづくりを目指してまいりたいと考えております。

詳細につきましては、この場での答弁は控えさせていただきたいと思っております。

また、令和6年度の当初予算につきましても、年明けの3月定例会に上程予定であります。選挙の関係から経常的な経費が主の骨格予算の計上となりますので、この場での私からの答弁は

控えさせていただきたいと思います。

次に、3点目の持続可能な島とするための歳出削減、新たな財源確保についてでございますが、さきの定例会でもお答えした内容と重複いたしますが、自主財源の確保につきましては、歳入の根幹であります市税収入の安定的な確保でございます。企業誘致や地場産業への支援をすることにより、長期的な税収の確保に努めてまいります。

また、引き続き徴収対策を推進し、徴収率の向上を図ってまいります。

次に、ふるさと納税制度の推進についてでございます。魅力的な返礼品の開発や、見やすいウェブページの更新、地域事業者への支援などを推進し、自主財源の確保に努めてまいります。

そのほかにも、公有財産の売却も含めた有効活用や、国際ターミナルの使用料の見直しなどの取組を進めます。

次に、歳出の削減の具体的な事業は何かと御質問ですが、歳出削減につきましては、まずは事務事業の見直しでございます。最小の経費で最大の効果を得るために、既存の事業についても見直しを図り、真に必要な事業に対して限られた予算の配分に努めてまいります。

また、令和4年3月に改定した対馬市公共施設等総合管理計画や、令和5年3月策定の対馬市公共施設等個別施設計画第2期に基づき、計画的な公共施設の廃止、集約、複合化、長寿命化、転用、規模縮小を市民の同意を得ながら進め、維持管理経費の縮減や平準化を行います。

そのほかにも、民間活力、ボランティアの積極的な活用、補助金の整理・合理化など、これまでと同様に着実に歳出の削減に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） では、大きな1番、2期8年間の自己評価についてなんですけど、昨日も申しあげましたけど、重要項目、目標項目ですね、K P I というのがあるんですけど、それを達成すれば、市長の将来ビジョン、すなわち目的を達成するものであるべきなのが、このK P I だと思っています。ところが、この重要目標を達成したからといって、目的が達成されるかどうかと疑念が生じるものが多々あります。本日の成果発表の中でも、単年度実績を上げられておりますが、単年度実績の加算のみだけではなくて、それでは目的達成の成果と言えないと私は思っています。

増えるものもあれば、減るものもある。継続的にここに住み続けていただいている移住者、これが増えるということが目的なはずなんです。ですから、単年度で幾ら増えたかという目標をつくるのも一つはいいです。ただ、重要なのは、この何年間、これだけ来て、そのうち、これくらいの人、これだけの人が残ってくれたんだという結果を出すことだというふうに思っています。K P I 自体の見直しを検討する必要性について、市長の見解を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） K P I の関係につきまして、ちょっと私も、今この場で、すぐ、どうしますということはなかなか申し上げられないということで、これは担当部課と今後、協議した上で、また決定をしていきたいなというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 昨日の資料、担当部署のほうに、私、こうしたらどうだろうという提案を出しておりますので、また検討していただければと思います。

それから次に、大きな2番、3選を目指すに当たって、現段階でのマニフェストの構想についてお聞きしますという点についてですが、今、構想中であると。そして予算にどういうふうなもの当初予算に乘せるんだという問いについても、骨格予算になるから、ここの場では控えるという御答弁だったと思います。

では、これ、批判としてじゃなくて、提案として聞いてください。今から申し上げます。

なりわいづくりについては、私は以下の5点を今後の対馬市で推進していくべきだと思っています。

①E S G投資、②ソーシャルビジネス、③M&A、買収と合併、事業承継のことですね。それから既存産業の再構築。それから5番目、兼業、副業の推進。6番目、貿易の振興です。

まず、1番目と2番目から申し上げます。

E S G投資とは、従来、投資判断は財務上の数値のみでなされていましたが、投資家が環境、社会、ガバナンスの3つの視点から投資先を評価し、その評価に基づいて投資を行おうということです。そのため、企業の社会的な取組、環境及び社会への配慮、企業ガバナンスの向上など、非財務情報も投資の重要な判断材料となります。例え、財務上の評価、売上げや利益が高くても、E S G評価が低ければ投資対象から外れてしまう場合もあります。

②ソーシャルビジネスとは、子育て、高齢者、障害者の支援や、地方活性、環境保護、貧困、差別問題など様々な社会問題の解決を目指して事業を展開し、社会貢献を目指す取組のことです。社会課題が多様化してきた今、行政による福祉的解決には限界があり、ソーシャルビジネスには注目と期待が寄せられています。

対馬のなりわいづくりに関して、この①、②の重要性については、対馬グローバル大学w e b講座で、九州大学、出水薫教授及び長崎大学、山口純哉准教授の講義でも説かれていました。

漂着ごみ問題に対して、中間支援組織、一般社団法人対馬C A P P Aに協議会の運営を委託するなど、市民協働で解決に取り組んでいるよい事例もあります。私は、これは大変評価しています。

対馬市の社会問題解決に向けて、中間支援組織育成・支援を強化して、E S G投資を呼び込み、

ソーシャルビジネスとして成立する基盤づくりに積極的に取り組んではどうでしょうか。市長の答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） いきなりの提案ということで、私のほうも、これを一つ一つ、こうします、ああしますということは、申し上げることはできません。

そういう中で、まず、今、対馬グローバル大学の中でもいろいろと協議を進めているところ、そしてまた先ほど議員のほうからもありましたように、九大の出水先生や長崎大学の山口先生、こういう先生からも本当に貴重な御助言等をいただいていることについては、今後の検討材料ともしたいと思っておりますし、先ほど議員のほうから提言があった内容につきましても、今後、市のほうに提言書としていただければ、これもまた今後の検討材料ということにしたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） また、今日も私が何か通告、確かに通告書には書いてないですが、答弁書を作成する担当の課長のところには、答弁書を作成する前までに、もっと詳しいことはこういうことを質問するつもりですよというのをレクチャーに行っています。なかなか通じないので、これから直接市長にお話しに行ったほうがよろしいでしょうか。

私は、自負しているのは、自分の一般質問の通告に関しては一番詳しく書いているし、それに足りないだろうと思っているところについては、担当課に私が出向いてレクチャーしている、そのつもりはあります。ただ、これがなかなかつながってないのか、私の伝え方が悪いのか、よく分かりませんので、その伝え方を今後、考えたいというふうに思います。

私がこの1、2番で言いたかったのは、ボランティアだけに頼る形では、新しい公共、つまり今まで行政がやってきたことを民間企業とか、NPOとか、そういうところに託していかなければならないと。それをビジネスとして成り立つようにしていく工夫をしていきたいと思いますよという話をさせていただきました。その点については御理解いただいているようですので、また自分でこういうことをしてはどうでしょうかという提案については、文書等にして御提案させていただきたいと思います。

それから3番目、今回も企業誘致についての質問等もたくさんありました。

私は、企業誘致も大事ですが、むしろ事業承継を含めた中小零細企業の支援が対馬においては求められていると認識しています。

現在、対馬市は、事業承継を創業の一部とみなして支援する方針を打ち出しています。現在、担当課に、地元税理士事務所等に事業承継の実態をヒアリングに行ってみてはどうですかと提案したところ、早速行っていただいて、勉強になりましたということをさせていただきました。そ

の取組は評価しています。すぐに行っていただきました。ありがとうございます。

しかし、今議会初日に上程された対馬市企業誘致条例の一部改正議案については、新設、増設を支援対象の必須条件としているなど、しばらくは現状維持を前提とする事業承継を想定しているの难道うかと疑念を抱きます。

初日の私の質問を御覧になっていた市民から、事業承継支援に力を入れている自治体は、中小企業支援条例などを制定して、その中で事業承継支援も手厚くやっている例があるよという情報をいただきました。

このように、創業支援と事業承継を別立てで実施する方針転換を検討してはいかがでしょうか。市長の答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 事業承継と企業誘致と含めてという質問内容だったと思いますけども、まず今回、条例一部改正、上程させていただいた企業誘致については、基本的には島外の企業を誘致するというのを大前提としておりますので、島内事業者の事業承継のために企業誘致条例があるというようなことは想定しておりません。

今現在、市で取り組んでいる事業といたしましては、議員も御存じの雇用拡充支援事業、創業支援がございますけども、その中で事業承継事業というような補助制度ではございませんけども、創業とか、事業拡大していく中で、年間何十件、20件、30件、ここ数年取り扱っているわけですけども、その中にも事業承継を絡めて事業規模を拡大するとか、新たな機械を購入するとか、そういった事例も現実的にございますので、事業承継を表に出して募集とかはしてはおりませんけども、雇用機会拡充支援事業の中で事業承継も数件発生はしておりますので、既存の事業の中で事業承継についてもカバーできているのかなというふうに考えております。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） では、私は、努力はしていることは認めていますということ言わせていただいたと思います。ただ、それを実らせるためには、やはり創業支援の中という取扱いではなくて、対馬市は事業承継にも一生懸命取り組んでいるんだよということを見せるためにも、こういう条例を新たにつくって、今、黒字であっても、黒字は倒産と呼びませんので、黒字であっても事業を閉じる方々ですね、そういう方々、少しでもこれが売ることができれば、また対馬にお金が残ることになるじゃないですか。そういうことも考えて、別立てで考えるということについても考えていただきたいなど。

そのことについても、私がもう少し案を練って持っていきたいと思います。よろしく願いいたします。

それから4番目、冒頭で述べたように、私は畑違いの企業誘致よりも既存産業の再構築を優先

すべきだと認識しています。海業等の副業、産業化も含めた支援を打ち出していることは大変評価できると思っています。

ただ、企業誘致というメリットばかりじゃなくて、デメリットもあるんだという話を最近お聞きしました。県内のI市では、電気産業の企業を誘致する際に固定資産税の免除等を行って来てもらうように取り組んだ。その際、免除した固定資産税については入ってきているものだと、国から言わせると。市が勝手に減免したんだろと。だから入ってきたものとして、交付税、交付金の算定はするぞというふうな形になっているよだということ、そのI市の財政担当課長から漏れ聞いております。だから、企業誘致することのメリット、デメリットも考えながら、企業誘致というものに取り組んでいくことも考えなければいけないかなというふうに思っております。

6番目、古来から対馬が繁栄した時期は大陸や半島との貿易が盛んであった時期と一致していることは多くの方が認識されていらっしゃると思います。貿易振興を図るには、市役所の一部のみに取り組むにはあまりにも多岐にわたっており、困難を極めると思われます。

そこで、財部市政時代に5つの循環というプロジェクトチームを設置していましたね。

比田勝市政では、貿易振興を図ろうと先ほども力強い宣言をしていただきました。

そこで、この貿易振興を図るプロジェクトチームというものをつくることは考えられないのか、市長の答弁を求めます。

また、令和4年6月の定例会で、厳原港と比田勝港を統合化する案も浮上していると市長は答弁しています。2港の連携を図るならまだしも、70キロも離れた港を統合化するとイメージが湧きません。厳原港と比田勝港の統合化とはどのような意味なのか、市長の答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、企業誘致の関係でございますけども、企業誘致も対馬市ではあくまで基本4種、それに市長が適当と認めるものについて企業誘致とするというような条例としております。そういう中で、私自身も、例えば、同じ企業誘致をする場合、小売業の、対馬の小売業の関係に支障が出るような企業誘致は、議員と一緒に、それは避けなければならないという強い思いを持っております。そういうところに、私も今後も注意しながら、企業誘致については、ただ、本来、対馬にはない新たな産業等もございますので、こういった面については、雇用を確保していくためにも進めてまいりたいというふうに思っております。

それから貿易振興の関係で、直ちに、このプロジェクトチームをつくる気はないかというような質問だったと思いますが、今現在、まず先ほどの大浦議員の質問の中にもありましたように、今後、税関法の関係とか、税関関係ですね、そういったところとか、港の開港問題、貿易問題、こういったところをまずですね、詳しく職員とともに勉強をするところから始めていきたいというふうに思っております。

最後に、厳原港と比田勝港の統合の関係については、担当部長のほうから答えさせます。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山 歩君） 比田勝港と厳原港の統合に関してですけれども、この統合化につきましては、令和元年6月の定例会におきまして、市長の行政報告の中で対馬港プロジェクトの取組について報告され、この取組につきましては、比田勝港を重要港湾へ昇格できないかということで、当時の国土交通大臣が来島された折に随行された港湾局長との面会の中で、比田勝港の現状と韓国人観光客の受入れ体制整備の必要性を説明して、その中で、港湾局長のほうから、地方港湾比田勝港の単独での重要港湾は難しいけれども、厳原港と比田勝港を統合しての重要港湾化、こちらについては選択肢があるというアドバイスを受けております。

その後、国のほうからのいろいろアドバイスも受けながら、また、港湾に関しましては長崎県の管理となりますので、県のほうにも、今後、統合化に向けた協議をしていただくよう要望する中で、今後、九州地方整備局、長崎県、対馬市と協議を重ねていくということで、その後、国・県、市と協議を3回、4回程度重ねておりますけれども、この統合に当たっては、ただ単に比田勝港と厳原港を統合するだけではなく、あくまでも統合ですので、それに係るスクラップ&ビルド、要は不必要なものは廃棄・廃止して、新たなものであるということになれば、本市港湾、重要港湾1港、あと地方港湾9港ありますけれども、その10港を整理しながら進めていく必要があるということですので、そうなれば、地方港湾が減ってくることも考えられるということで、この分については、地方港湾を有する地区や漁協等の調整が難航する可能性も高いということ、あと類似機能の港湾同士が離れておりますので、その辺からかなりハードルが高いということが考えられております。

現段階におきましては、厳原港、比田勝港の統合構想の実現可能性について、その整理を行い、可能であれば、統合計画素案等の事前検討を行い、対馬港構想検討準備会、こちらのほうの中で、どのように今後、構想を立てるかという検討を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 要は、統合というのは、今ある重要港湾等を整理していくということ、そういうふうな捉えてよろしいですね。はい。

それから先ほど市長が税関法と言われたんですけど、ちょっと私、勉強不足か分からないんですけど、税関法という法律があるんですか。関税法でいいですか。（発言する者あり）はい。

それから、大浦議員の一般質問の際に市長が比田勝港の開港に一生懸命取り組むと答弁したことを大いに期待しています。

それから、ただし、市長の開港に関する認識に疑念を持ちましたので、質問します。

大浦議員がおっしゃったように、開港基準については明文化されていません。市長が開港基準として上げた数値は、それを一定期間下回ったら開港を取り消すという基準だというふうに思っております。

また、開港とは、保税蔵置場が設けられていれば……。

○議長（初村 久藏君） 脇本君、時間が来ておりますので……。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 私じゃなくて、こちらが止めたでしょう。その期間は止めたんですか。

○議長（初村 久藏君） どうぞ。注意だけ。

○議員（9番 脇本 啓喜君） また、開港とは、保税蔵置場が設けられていれば、原則そこで輸入をほかの港よりも比較的簡易な手続で可能な港と捉えていいでしょう。ただし、不開港であっても、他所蔵置手続を取れば貿易は可能です。逆に巖原港のように開港であっても保税蔵置場を持たない港は不開港同様、その都度、保税蔵置場手続を踏む必要があります。

大浦議員から、スケトウダラを韓国から輸入して加工し、輸出する構想が披露されました。比田勝港国内ターミナル背後地に保税工場を建設し、そこを加工貿易の拠点とすれば、輸出入両方の関税減免措置優遇が受けられます。この土地を上対馬病院建設候補予定地の一つとしていますが、津波等の心配を考えれば候補地としては不適合ではないかというふうに私は考えているということをお伝えして、本日の質問を終わりたいと思います。

以上です。

○議長（初村 久藏君） これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

議事運営の都合により暫時休憩します。再開は2時15分からといたします。

午後1時58分休憩

午後2時15分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

ただいま大浦孝司君ほかから、地方自治法第135条第2項及び会議規則第160条第1項の規定によって、入江有紀君に対する懲罰の動議が提出されました。

この動議を日程に追加し、追加日程第1として直ちに議題とすることについて、起立によって採決をします。この動議を日程に追加し、追加日程第1として直ちに議題とすることに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（初村 久藏君） 起立少数です。動議を日程に追加することが否決されましたので、後日

の議事日程に記載して議題とします。

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日の議事日程は全て終了しました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後2時16分散会
